

困ったときのちょい技・小技

今した操作を元に戻す ■閉じたページを開く

パソコンを操作していて「今の取り消し!」と叫びたくなることはよくあります。文章執筆中に切り張りをしすぎてしまった、読み返さずメールを送信してしまった、まだ読むつもりだったウェブページを消してしまった……など。今回はそういうときに助かる小技を集めました。万能ではないし、使えるソフトやサービスが限られるものもあります。けれど、知っていれば、かなりの確率で助けになるでしょう。

(丹治吉順)

てくらの生活入門

まずは定番中の定番「Ctrl+Z」。ほとんどのソフトで「今やった操作」を取り消してくれます。Ctrl(コントロール)キーを押しながら「Z」を押します。Ctrlキーはキーボード左下にあります。繰り返せば、相当前の操作までさかのぼって取り消せます。



ただしウェブ上の操作ではこの技はあまり役に立ちません。特に、ウェブで一度クリックしたものを取り消すことは困難です。多くの場合、「イエス/ノー」を聞かれたり、元に戻る操作が用意されていたりするので、通常はそれで対処します。

もしマウスの左ボタンを押した瞬間、「しまった!」と思った

ロップされる状態になります。この場合は、指を離さずにアイコンをいったん別の場所に動かして元の場所に戻しましょう。元の場所に戻すまでの間、指を離さないのがポイントです。Ctrl+Zにせよ、この「クリックとりやめ」にせよ、うまくいかないこともあるので過信は禁物です。



ウェブサイトを閲覧中、まだ読むつもりだったページをうっかり閉じてしまったことはよくあります。インターネット・エクスプローラー(IE)の最新版「8」では、そうしたページを復活させることができます。

IEは7から「タブ」という表示方式を導入しています。ウィンドウ内にあるタブを切り替えることで、表示するページを切り替えられます。

あるタブを閉じてページが読めなくなってしまうときは、別のタブを右クリックします。

表れたメニューの中に「閉じたタブを再度開く」という項目があるので、これを選択すると閉じたページが再度開きます。その下の「最近閉じたタブ」にマウスカーソルを合わせると、直

前だけでなく最近閉じたページの一覧が表示されるので、表示させたいページを選びます。

意外に冷や汗をかくのがメール。添付ファイルを忘れた程度なら再送すればいいのですが、失礼な表現を消し忘れたなど、送信ボタンを押した後になって気がつくケースは多いもの。送信ボタンを押した瞬間に「待てよ!」と思ったら、前述のマウスカーソルをすらすら方法で何かなる場合もあります。しかし、指を離してしまつたら、たいていは間に合いません。



グーグルが提供するウェブメールのGメールには「送信の取り消し」機能が用意されているので、Gメールユーザーは試してみたいかもしれません。(一部利用できないケースがあります)

この機能を使えるようにするには準備が必要です。左の図のように設定していきましょう。「Labels」というのは、グループが実験的に提供している機能のグループです。取り消しがきく時間は、「送信」を押してからわずか10秒程度。それ以上たつたら送信されてしまうので、気をつけましょう。

今の操作とりけし!

Ctrl + Z

- 文字を消しすぎた
- やっぱり移動はしない
- トリミング取りやめ……などなど
(ただし、取り消せないものも多数)



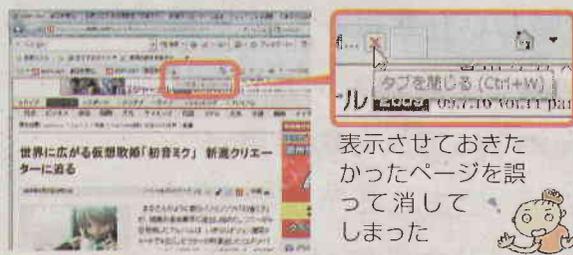
クリックとりやめ!



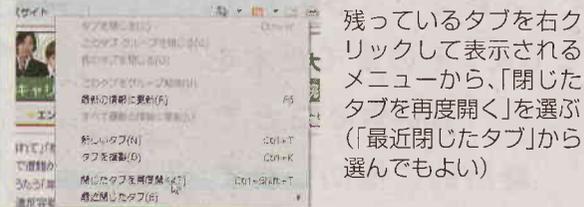
マウスのクリックボタンを押した瞬間、「しまった」と思ったとき

ボタンを押した指をはずさず何もなかったところにカーソルを移動(うまくいかないものもある)

いま閉じたページをもう一度見たい (インターネット・エクスプローラー8の場合)



表示させておきたかったページを誤って消してしまった



残っているタブを右クリックして表示されるメニューから、「閉じたタブを再度開く」を選ぶ(「最近閉じたタブ」から選んでもよい)

メール送信のとりけし!

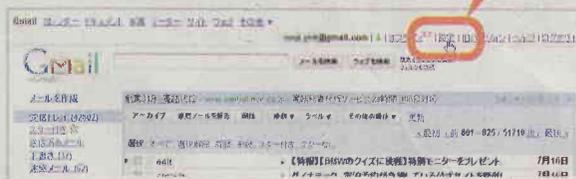
(Gメールの場合)

送信ボタンを押して10秒程度なら、送信を取り消せる

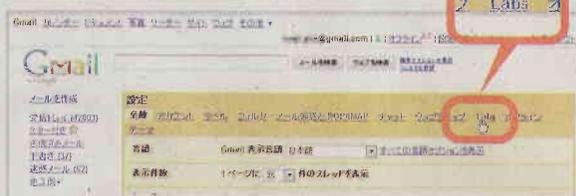


事前設定

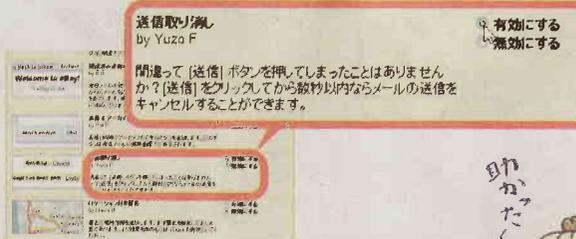
画面右上のメニューから「設定」をクリック



表れた画面で「Labs」をクリック



表示された一覧の下の方にある「送信取り消し」で「有効にする」をチェックし、画面の一番下にある「変更を保存」をクリックして設定完了



設定しておくと、メール送信後に「取消」という文字が10秒程度表れる。その間にクリックすれば送信を取り消せる

